

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 対象校名 金沢工業高等専門学校
- (2) 所在地 石川県金沢市久安2丁目270番地
- (3) 学科等構成
- 電気電子工学科（入学定員40名）
（平成21年4月1日電気情報工学科を名称変更）
 - 機械工学科（入学定員40名）
 - グローバル情報工学科（入学定員40名）
（平成21年4月1日国際コミュニケーション情報工学科を名称変更）
- (4) 学生数及び教員数（平成24年5月1日現在）

学生数（人）（）内は女子数で内数

学科	1年	2年	3年	4年	5年	合計
電気電子工学科 ※電気情報工学科	39(1)	47(2)	40	27	27(2)	180(5)
機械工学科	43	47(2)	34	35(1)	36	195(3)
グローバル情報工学科 ※国際コミュニケーション情報工学科	51(13)	41(12)	36(9)	22(7)	26(4)	176(45)
合計	133(14)	135(16)	110	84(8)	89(6)	551(53)

専任教員数（人）

所属	教授	准教授	講師	助教	計
校長・副校長	2				2
電気電子工学科	5	1	4		10
機械工学科	6	2	1		9
グローバル情報工学科	3	5	2	1	11
一般科目	9	6	5	4	24
合計	25	14	12	5	56

2 特徴

金沢工業高等専門学校（以下、本校）は、昭和37年に創立され、学校法人金沢工業大学（以下、学園）が設置する金沢工業大学（以下、大学）と共に学園が目指す工学アカデミアの実現を担って理念を共有し、5年一貫の制度を活用した体験重視型教育を実施している。

本校の最も特徴的な点は、大学と同じ教育理念を持つことから、学園が運営する教育、研究の支援組織を大学と共用しており、充実した教育研究環境で学生が学べる点にある。また卒業後の大学への編入学に関しても、学生は推薦制度により進学しており、密接な連携が図られている。

本校の教育の特色は、「ものづくり教育」「工学・英語協同学習」及び「キャリア教育」にあり、これらを通じた「人間形成」の涵養に努めている。

「ものづくり教育」は、現場技術者の養成を基本とした教育を実践しており、学生の創造性を引き出すエンジニアリングデザイン教育を展開している。この取組は、文部科学省のGP事業（ものづくり技術者育成支援事業）に選定され、特色の一つとなっている。特に近年は、新たな時代に向けた工学教育の改革を提唱する国際的組織CDIOイニシアチブに国内で初めて加盟し、本校のものづくり教育の進展を図っている。

「工学・英語協同学習」は、技術現場の国際化への対応の必要から力を注いできたもので、単位認定を伴う海外留学制度を確立していることに加えて、工学・英語協同学習として各学年に開講する専門科目の内、実習・演習科目の中に外国人教員も参加して授業を行っている。この取組は、文部科学省GP事業（大学教育・学生支援推進事業）に選定されている。

「キャリア教育」は、1年生から5年生まで学年に応じたキャリア発達を求める本校独自のキャリアノートを開発し展開しており、自立・自律した人材の育成を目指している。特に4年生には全員が参加するインターンシップを実施している。学生は、この体験を研修先企業と保護者も参加する報告会で発表し、この経験の中で大きく成長したと実感している。この取組は、文部科学省のGP事業（大学教育・学生支援推進事業）に選定されている。

「人間形成」については、建学綱領に加えて、行動規範を明示し、学生、教職員に自主的で主体的な行動を強く求めている。この内容は、「思いやりの心」「知的好奇心」「共同と共創の精神」「誠実」「勤勉」「活力」「自律」「リーダーシップ」「自己実現」の9つで、それぞれの英語表記の頭文字をまとめて「KIT-IDEALS」と称し、普段目につく配付物、玄関及び教室に掲げ、日々実践するよう啓発に努めている。また、学生は、1年、3年、4年、5年に2泊3日の合宿研修に参加し、教員と寝食を共にしながら、「規律・礼儀・共同」を基本としたリーダーシップとチームワークを体験しており、本校の人間形成教育の原点となっている。

このように本校は、「人間形成」を教育の基本理念として、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を目指している。

Ⅱ 目的

1. 基本的使命

本校は、学園の建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

2. 教育理念

(1) 学園の建学綱領

本学園は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献する。

【三大建学綱領】

人間形成：我が国の文化を探求し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成する。

技術革新：我が国の技術革新に寄与すると共に、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成する。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献する。

(2) 工学アカデミアと行動規範

工学アカデミアとは、学園を構成する学生、理事、教職員が学園共同体の一員として行動する際、意志決定の根底をなす価値群である“KIT-IDEALS”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場である。

K	Kindness of Heart	思いやりの心
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心
T	Team Spirit	共同と共創の精神
I	Integrity	誠実
D	Diligence	勤勉
E	Energy	活力
A	Autonomy	自律
L	Leadership	リーダーシップ
S	Self-Realization	自己実現

3. 教育目標

本校では、教育の根本は「人間形成」にあるという考えのもと、本校の教育は、エンジニアであると同時に個人或いは社会人としての義務と責任を理解・実行でき、他の模範となる自主・自立型の卒業生を育成するとし、その教育目標を「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」と定めている。

この教育目標を達成するために、次の実践目標を掲げている。

【教育目標】

21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成

【教育実践目標】

- (1) 人間形成
- (2) エンジニアとして必要な能力の育成
 - ① 創造力、判断力及びリーダーシップを育成する
 - ② コミュニケーション能力及びキャリア実現力を育成する
 - ③ 幅広い工学の基礎力を育成する
 - ④ 高い専門的識能を育成する
- (3) 三位一体（学生・学校・保護者の一致協力）の教育及び自己点検評価

4. 各学科の目的と学習・教育目標

(1) 電気電子工学科

電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とし、その学習・教育目標を、電気電子に関する基礎知識を修得し、回路設計、計測制御、更にコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成としている。

(2) 機械工学科

機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とし、その学習・教育目標を、ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの育成としている。

(3) グローバル情報工学科

グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とし、その学習・教育目標を、コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基礎となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育成としている。

5. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力

本校では、5年一貫教育を通して卒業時に身につける学力や資質・能力を次のように定め、学習する際の指針としている。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| A 「人間性」 | ① 自分で考え、主体的に行動することができる。 |
| | ② 技術者としての倫理や責任に基づいた意思決定ができる。 |
| B 「創造性」 | ③ 専門知識・技能を組み合わせ、ものづくりができる。 |
| | ④ メンバーとしての自覚と責任を持ち、リーダーシップを発揮できる。 |
| C 「国際性」 | ⑤ 英語でコミュニケーションができる。 |
| | ⑥ 国際感覚や異文化を理解し受け入れることができる。 |
| D 「基礎力」 | ⑦ 自然科学（数理科目）及び工学の基礎を理解できる。 |
| | ⑧ 論理的な考え方ができる。 |
| E 「専門力」 | ⑨ 専門知識と技能を用い工学的な問題を解決できる。 |
| | ⑩ 科目間の相互関連性を理解し、専門全体を俯瞰できる。 |
| | ⑪ 各学科で推奨する資格を取得できる。 |